事例報告

洋雑誌購入価格決定方法の紹介

泉谷嗣郎*

＜はじめに＞

毎年秋になると病院図書室でも図書購入の価額交渉が展開されるが、最も合理的な購入方法であると評価されている係数方式について少し紹介してみたい。

この方式によって算定される割引率の数字を、洋書購入額を決定するための目安にしているのが大学や他病院の現状のようである。

すでに病院図書室担当者の方々の中には、この方式をご存知の方もたくさんおられると思うが、ここで改めて病院図書室における洋雑誌購入の参考になればと考え、係数方式についての簡単な算式の説明を中心として、以下に文献を引用し紹介を試みる。

1。概　要

係数方式を簡単に要約すると、原価の邦貨換算に一定の諸経費率を加算して購入価額を算定する方式で、業者の発注費、欠号補充費、人件費などの原価に対する比率を積み上げて購入価額を算出するものである。[1)]

この方式の経過をたどってみると、20年余り前に大阪大学が全学の購入洋雑誌を一括して前金払いをする会計手続きを採用する際に20％程度の諸経費を原価に上積みする方法を採用して以来、広く各大学で採用されるようになったものである。[2)]

次に係数方式の算式の立て方を簡単に説明すると以下のようになる。（外貨価格）×（実勢レート）×（諸経費率：1＋率）＝（購入価額）[3)]

つまり定価（外貨価格）に実勢レートを乗じて、これに諸経費率を掛け、これを合計して得た値が購入価額となる。そこでこの算式の内容と外貨価格、実勢レート、係数（経費率）などについて少し説明を加えてみたい。［表Ⅰ］

2。外貨価格

外貨価格は外国の出版社が提示する定価で、これを調べるToolとして、例えばEBS Co, Librarians Handbook や Moore Cottrell 社のカタログにより確認できる。この他、£（ポンド）・DM（マルク）・FFr（フランスフラン）・SFr（スイスフラン）・GLD（ギルダー）などについてもカタログが出版されているので、これで確認されるとよい。[4)]

外貨価格は洋雑誌の定価であるが、これが日本国内に入ってくると代理店では業者建値（Periodical Rate）なるものを提示し、定価にこの数字を乗じてカタログ・プライスを作成し、販売しているのが現状で、ここに各書店間の販売価格の差異が生じる要因があるものと思われる。

* 大阪赤十字病院図書室

3。実勢レート

変動相場制に移行して以来、実勢レートは係数方式による図書購入価格決定の数字の一つとして重要な意味をもち、相場の変動に応じた数字を算式に導入することにより、実勢レートに外貨価格と係数を乗じて得られる購入価額がより適正に近い値で捉えられる。

購入基礎資料作成の際の実勢レートの数字は、出来る限り広く資料を調査するべきだが、交渉の3カ月前から相場の変動状況を調べ、各月の平均をとり、また前年度同期の数字も参考にして見てはと思う。

4。諸経費率

諸経費率の構成は、加藤氏によれば「直接的経費として発注費、欠号補充費、人件費、銀行借入利息があり、間接的経費として通信費、公課負担、広告費、地代家賃、事務用品費、原価償却費、並びに利潤などがある。これらの諸経費のうち直接的経費の算出は、発注点数と総支払い金額から算出される送金手数料、欠号発生率やその時の金利からある程度可能である。ちなみに宮坂氏によれば、O大学の例として発注費1.6%、欠号補充費0.9%、人件費13%、金利4%で、計19.5%とされている。したがって、いくら雑誌原価の邦貨換算が外国送金の直前で最も実勢に近いものであっても、その上に積む諸経費の構成要素に算定不能の部分があってはこの数字全体が合理性をもったものとはいえない。その中でも特に、利潤というものにいたっては、一般的な商品取引慣習の存在する中で妥当な数字を提示する事は困難である。

このような事もふまえてか宮坂氏は23%提案の基礎として、国内業界3者（出版・取次・書店）の協議による和雑誌の諸経費23%をあげ、それに外国雑誌の特殊性（外国発注に要する経費、係員の語学要因による人件費アップ等）による7%を上積みし、逆に国内取次店への外国出版社からのトレードディスカウント分として7%を引いてプラス・マイナス「0」とし、この23%という値を提示されているが「その意図は充分に理解できるとしても我田引水的な感がすることは免れえない。」[5]と述べておられる。

現実の問題として、実際に使用されている経数値は、10月、11月頃の交渉で23%にプラス・マイナス1%〜2%の幅で扱われているのが実状であろう。勿論、支払い条件が大きく影響してくることは考えておく必要がある。

＜おわりに＞

図書購入費基準表　　1981年

月	実勢レート	業者建値	経費率	割引額	割引率
8	225円	350円	1.22	75円	21%
9	233円	350円	1.22	65円	19%
10	229円	350円	1.22	71円	20%

（註）1. 1ドルの場合の値です。
2. 実勢レートは1カ月平均値。
3. 10月は1日〜14日迄の平均値。

係数方式は、現状における洋雑誌購入方法に関して最も合理性のある方法であると考えられるが、しかし係数を構成する基礎となる数字の算定に不確実な点のあることは否めない。

だが、これに変わるより合理的で確実性のある方法が発見されていない現状としては広く採用されているこの方式を取る方が購入側としては得策ではないだろうか。

そして大規模の図書室でも、小規模の図書室でも洋雑誌を購入する条件についての差異は小さくなってきていると思われる。

したがって、購入規模による不利益を避けるため、それに見合った方策はそれぞれに考案されていると推察する。　その方策の一つとして現在広く採用されている係数方式について主に述べた訳である。勿論この場合購入条件の違いもあろうし、手続きに手間をかけるという不必要も考えられるが、それはこの方式の利点とも考え合わせて、それぞれの実状に合ったアレンジを行ってみてはどうだろうか。

なお、病院図書室でもこの方式に限らず、洋雑誌購入については、さまざまな方法がとられているが合理的な方法の一つとしてここに係数方式を紹介した。多くの方々の御検討をお願いしたい。

<引用文献>

1) 加藤晃：外国雑誌の購入価格について，第15回医学図書館員研究集会論文集，72-76，1980

2) 同　上　72-76，，1980

3) 福田健：雑誌購入について，第15回医学図書館員研究集会論文集，65-67，1980

4) 小笠原敏明：外国雑誌の購入方法と原価確認Toolについて，第15回医学図書館員研究集会論文集，95-104，1980

5) 加藤晃：外国雑誌の購入価格について，第15回医学図書館員研究集会論文集，72-76，1980

<参考文献>

1) 宮坂寛：外国雑誌購入価格統一に関する一考察，大学図書館研究，16，48-55,1980

2) 西岡正行：外国図書の購入について，医学図書館24(3)，121-122，1977

3) 千住とも子：外国雑誌購読価格の比較，日本病院会雑誌26 (2)，99-101，1979